

大学入試センター「平成30年度告示高等学校学習指導要領に対応した 大学入学共通テストの出題教科・科目について（検討中案）」に関する意見

令和2年11月30日
日本私立大学協会

■はじめに

- 私立大学における大学入学者選抜は、建学の精神を源泉として、自主的・自律的に展開する多様で特色ある教育実践の第一歩に位置付けられるものである。その重みに鑑みれば、私立大学における大学入学者選抜は、各私立大学の自主性・自律性に委ねられるべきである。
- また、我が国の18歳人口は長期に亘る減少局面へと突入したが、少子化時代の大学入学者選抜では、これまでの「セレクション」の視点から「マッチング」の視点での実施に比重が置かれるようになっている。
- これらの点に鑑みれば、私立大学における大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の利活用についても、これまでと同様にその採否や方法については各私立大学の裁量に委ねられるべきである。
- こうした基本的考え方を踏まえて、以下に若干の意見を申し述べたい。

（1）「情報」科目について

- 平成11年改訂高等学校学習指導要領において、新たな共通科目として設けられた「情報」については、既に一部の私立大学の入学者選抜試験において、試験科目として出題されている状況にある。
- また、私立大学における共通テストの利活用は所謂アラカルト方式であり、「情報」の利活用についても各私立大学の自主性・自律性に委ねられていることも合わせて鑑みれば、この度、新たな教科として「情報」を加える方向で検討が進められていることに特に異論はない。
- なお、今後の検討にあたっては、①「情報」の出題内容を早い段階で大学や高等学校関係者に周知すること、②この度の新学習指導要領で新たに加わったデータ活用等をはじめとする高等学校における「情報」の教育実態を踏まえ、受験生の公平性・公正性に十分に配慮した出題内容とすることを改めてお願いしたい。

（2）出題科目の削減について

- この度の検討中案では、現在30科目にまで増えている出題科目の数や組み合わせについて、大学および高等学校関係者の実施負担や大学入試センターの業務経費を削減するため、21科目までスリム化すること等が示されている。
- ウイズコロナ、アフターコロナも含めて、大学入学者選抜を取り巻く環境の変化により、その実施負担や財政負担が増すなかで、今後も共通テストを持続させていくためには、試験科目のスリム化の検討は必要なことと考える。
- その際、激変緩和の観点から、現行の共通テストからの大きな変更は極力避けるとともに、専門高校をはじめとする多様な受験生の受験機会の確保を考慮した出題科目・出題内容とすることにもご配慮いただきたい。

(3) CBT (Computer-Based Testing) について

- 検討中案では、CBTの導入について検討することも示されているが、公平性・公正性が強く求められる共通テストでCBTを活用するためには、高等学校におけるパーソナル・コンピュータ等を活用した情報教育の一層の充実と、高いセキュリティ対策等により、受験生にとって公平・公正な受験環境を損なうことのない制度設計とその運用が求められる。
- また、私立各大学において、受験のためのパーソナル・コンピュータを配備した試験会場の整備には種々の困難も想定されるので、共通テストに係るCBTの導入にあたっては、受験環境や実施方法についても周到な改善検討と準備が必要と考える。共通テストにおけるCBTやオンライン受験の検討にあたっては、上記の課題解消を含む受験環境等の整備を特にお願いしたい。

以 上